

学校教育目標	豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満足の花				
	○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます(知) ○自他を大切にし、豊かな体験を通して他者とともによりよく生きる力を育てます(徳) ○自ら健康を保持・増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます(体) ○自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働する力を育てます(公) ○自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力を育てます(開)				
学校概要	創立 55 周年	学校長 今野 敏晴	副校長 細矢 千穂	2 学期制	一般学級: 14 個別支援学級: 2
	児童生徒数: 420 人	主な関係校: 大正中学校 大正小学校 東俣野小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大正中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 問題発見・解決能力 自分の考えを伝える力	大正中学校 大正小学校 東俣野小学校 小雀小学校	課題解決に向けて、学習に向かう姿勢を身に付け、粘り強く学ぶ子ども ○合同授業研では、ブロック内の共通テーマである「粘り強く取り組む子」を育てるための手立て、一人ひとりに寄り添った授業の在り方や支援の仕方などについて話し合っている。また、ICTを活用した授業を参観し、ICTを活用した授業展開についても研究していきたい。 ○年間3回の、各校の子どもたちの様子の情報交換は、支援が必要なケースの対応例やブロック内地域の状況がつかめるいい機会になり、具体的な支援をどのようにおこなっていくのかを話し合っている。

中期取組目標	○子ども達の夢や希望を育みながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します ・子どもたちが様々な学習や体験を通して多くの人やものと出会い、豊かに学べる学校づくりを目指します。 ・人との関わりやつながりを大切に相手意識、目的意識を育て、子どもたちがお互いの良さを認め合い協力する喜びを実感し、共に成長していこうとする豊かな心を育てていきます。 ・学校・家庭・地域の中で自己有用感や多くの達成感を感じ、夢や希望をもち、なりたい自分に向かって努力し続ける意欲を高めていきます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	学力向上	①基礎教科学力の向上...知識・技能の確実な習得を目指した指導を校内で徹底できるようにする。また、身に付けたことを活用する力を学力の校内の共通の捉えとしてもち、「自分の考えを伝えることのできる子」の育成を掲げ、授業改善を通して子どもの伸びを把握する。②非認知能力の育成...キャリア形成を担う能力という意識を校内で高める。数値では測ることのできない能力をどのように培っていくか年度内に具体方針を見出す。③子どもの実態分析と改善案の検討...学力・学習状況調査をもとに、前回調査と本年度調査の子ども伸びを把握し、学校全体としての取組を実施する。
徳	人権教育 特別支援教育	①「認め合いのできる子」を育てることを目標に、すべての児童が安心できるような学級経営の推進をする。②すべての児童が過ごしやすく、学びやすくするために学校としてのユニバーサルデザインの推進をする。③個別の教育支援計画や個別の指導計画を有効活用し、個に応じた支援を推進する。
体	安全教育 健康教育	①災害はいつどこで起きるかわからないので、訓練の前の事前指導を十分に行ながら、目的にあった避難方法で避難ができるようにする。②学校生活を安全に行うよう呼びかけ、学校でのけがの件数を減らせるようにする。学校保健委員会では「規則正しい生活」を年間のテーマとし、学校全体で取り組めるようにする。③体力向上に向けた取り組みを引き続き行う。
公開	公共心 社会参画	①社会的な諸事情も含めた本校の教育的課題に対応した各種行事計画の立案・修正を行う。②行事等のPDCAサイクルによる計画・実施において、子どもの公共心や社会参画意識を高める観点からの検討を十分に行う。③地域との連携を進めることを通して、行事や学習における子どもの公共心や社会参画意識の高揚を図る。
いじめへの対応		①いじめの積極的認知を行い、児童の心に寄り添った対応をする。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の迅速な対応と丁寧な経過観察を行うことで再発防止に努める。③いじめ防止研修を行い、教職員のいじめに対する意識を高め、いじめを見逃さない体制づくりをする。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①【主任会】校内における課題点を把握し、改善案について検討し、子どもたちの伸びに必要なことについて協議を重ねる。②【メンター】教師としての授業力や学級経営力など、基礎的なことを学ぶ。③働き方については、校内体制を確立することから始める。
児童指導 心の教育		①小雀スタンダードや学校生活目標を児童にとって主体的に関われる内容に見直すことで、学習しやすく安全な生活を送るための基準として児童自身が活用できるものにする。②YPアセスメントや教育相談を定期的に行い、児童理解と具体的な支援・指導の推進をする。③職員会議や打合せで児童情報を共有する場を設け、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。
GIGAスクール		①ICT機器を活用した授業展開において、「子どもの伝える力」を伸ばす実践を継続していく。②教職員と児童の適切な端末の使用に向けてiPadスタンダードを見直ししていく。③教職員研修を定期的に取り組み、全体的なスキルアップを目指す。また、情報リテラシーについての理解を深めていく。④端末の持ち帰りについて、保護者の理解のもと、段階的に進めていく。
教職員研究・研修 カリキュラム・マネジメント		①「伝える内容」「伝える方法」「伝える目的」の3つがわかるような授業デザインを大切にするとともに、「子ども達が解決したくなるような課題の設定」や「語彙を増やす学習方法」について職員で相談、研修等を行い、同じ方向性で子ども達の指導にあたるようにしていく。②授業改善・学級風土作り・ICTの活用を3本の柱として、どの部会でも「自分の考えを伝えることのできる子」を目指して研修や取り組みを計画実践していく。職員一同が目指す姿を共有して指導に当たれるようにする。③地域とのつながりを大切にした教育課程を目指して、各教科等で育成する資質・能力と「自分づくりに関する力」の関連を意識し、教科等横断的な視点で年間計画の作成にあたる。
地域学校 協働活動		①学年、学級での教育活動の構想時において、学校協働本部と連携して設けた人材バンクの活用を努め、地域材を活かした教育活動の拡大、深化を図る。②児童とともに地域も参加する形で本校に定着した日本漢字能力検定に対する参加者数の拡大を目指す。③学校運営協議会では、学校運営の更なる向上に向けた連携を推進する。
担当		教務部